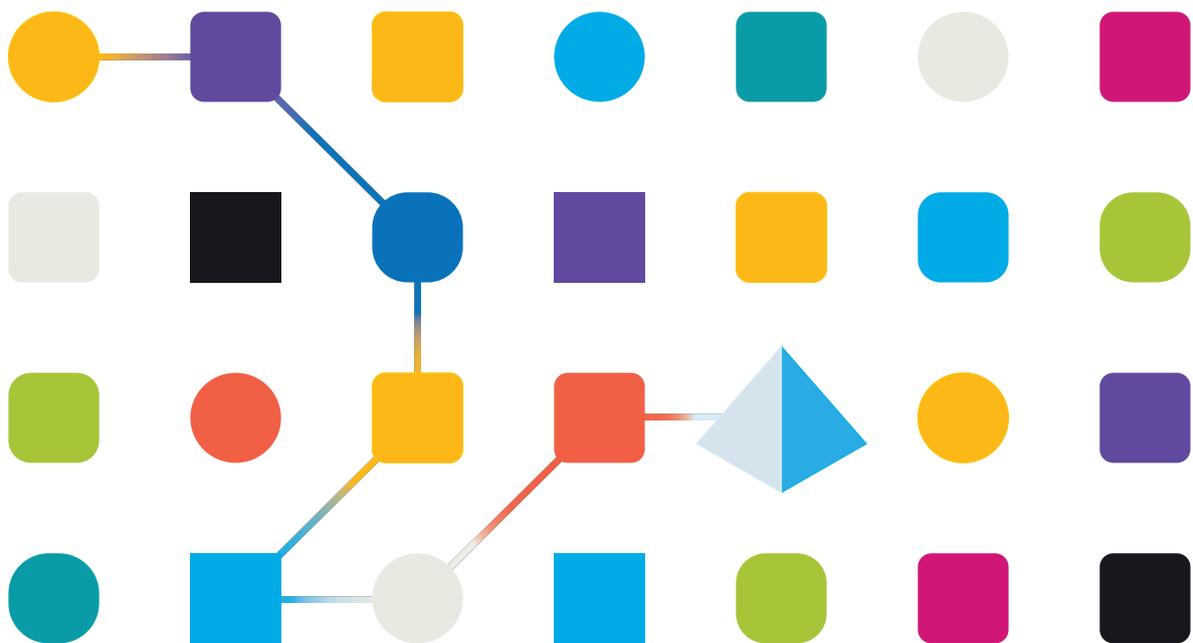


blueprism[®]

Interact 4.7

リリースノート

Document Revision: 3.0



商標および著作権

本ガイドに記載されている情報は、Blue Prism Limitedおよび/またはその関係会社が独占的に所有する機密情報であり、権限を与えられたBlue Prism担当者の書面による同意なしに、第三者に開示してはなりません。本文書のいかなる部分も、複写機などの電子的あるいは機械的な形式や手段を問わず、Blue Prism Limitedまたはその関係会社の書面による許可を得ることなく、複製または送信してはなりません。

© Blue Prism Limited 2001 – 2023

Blue Prism、Blue Prismのロゴ、およびPrismデバイスは、Blue Prism Limitedおよびその関係会社の商標または登録商標です。All Rights Reserved.

その他のすべての商標は本文書によって確認され、各所有者のために使用されています。

Blue Prism Limitedおよびその関係会社は、本ガイドで言及する外部Webサイトの内容に関して、責任を負いません。

Blue Prism Limited, 2 Cinnamon Park, Crab Lane, Warrington, WA2 0XP, United Kingdom。
英国で登録: 登録番号 4260035。電話: +44 370 879 3000。Web: www.blueprism.com

内容

リリースノート	4
Interact 4.7 – 2023年1月	4
HubとInteractをアップグレードする	6
HubとInteract 4.6をバージョン4.7にアップグレードする	6
Blue Prism Data Protectorツール	12
旧リリース	15
Interact 4.6 – 2022年6月	15
Interact 4.5 – 2021年11月	21
Interact 4.4 – 2021年9月	23
Interact 4.3 – 2021年5月	27
Interact 4.2 – 2021年4月	29
Interact 4.1 – 2020年11月	31
Interact 4.0 – 2020年9月	34

リリースノート

Interact 4.7 – 2023年1月

このリリースノートは、Blue Prism® Interactの4.7リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
インストール	Blue Prism Interactは、次を使用するように更新されました。 <ul style="list-style-type: none">.NET 6.0.NET Framework 4.8 インストーラーとアップグレーダーの両方が、これらの前提条件を反映するように更新されました。 ダウンロード情報については、「 Blue Prism Interactインストールガイド 」を参照してください。	HUB-4058 HUB-5308

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
ログイン	アプリケーションプールのリサイクル後にログインした後にInteractタイルが無効になる既知の問題が修正されました。	HUB-5054

Web API サービスの更新

このリリースでは、Interact API サービスのリリースファイルに変更は加えられていません。

制限事項

Interactの役割でのActive Directoryの使用

InteractにはActive Directoryセキュリティグループとの限定的な互換性があります。Interact Remote APIのユーザー関連アクションの一部は、セキュリティグループをサポートしていませんが、Interactの役割に直接割り当てられたユーザー(Active Directoryユーザーを含む)をサポートしています。

Active Directoryを使用しており、Interact Remote APIを使用して「送信を作成」と「送信を生成」のアクションを使用する場合は、アクションが正しく機能するように、HubのInteractの役割にユーザーを直接割り当てる必要があります。これらのアクションは、Active Directoryセキュリティグループの使用をサポートしていません。ただし、セキュリティグループを使用するように役割を構成すれば、「役割に送信を生成」アクションを使用できます。

次の表は、入力または出力においてユーザー情報を利用するアクションと、Active Directoryとの互換性をまとめたものです。

Interactの役割を持つActive Directoryセキュリティグループの使用をサポート	Active DirectoryユーザーのInteractの役割への直接割り当てをサポート
役割に送信を生成	送信を作成 送信を生成 役割に送信を生成 フォーム名別にユーザーを取得 フォーム名別に役割を取得

ロールの構成については、「」[Blue Prism Hub管理者ガイド](#)」を参照してください。

セキュアな開発ポリシー

Blue Prismのセキュアな開発プロセスは、市場をリードする組み込み型のセキュリティ文化であり、次の4つの主要原則を通じて優れたセキュリティを提供することに重点を置いています。

- 教育 – 最新の知識、情報、トレーニングを開発チームに提供します。
- 評価 – 業界標準のフレームワークとセキュリティツールを使用して、当社製品を定期的にレビューします。
- 排除 – 基準、コンプライアンス、パフォーマンスの評価を通じて潜在的な脅威を取り除きます。
- 進化 – 当社のセキュリティプログラムを継続的に改善して、当社の製品技術との整合性を確保し、新たな脅威に効果的に対応します。

Blue Prismのセキュアな開発は、OWASP ASVS、ISO 27034、GDPR第25条の標準と慣行に基づいています。詳細については、Blue Prismの「[包括的でセキュアな開発プロセス](#)」を参照してください。

HubとInteractをアップグレードする

HubとInteractのアップグレードは、専用ツールを使用するシンプルなプロセスです。現在使用しているバージョンから、順番にアップグレードツールを実行する必要があります。このセクションでは、以前のリリースから最新のリリースへのアップグレードについてのみ説明します。アップグレードプロセスの詳細については、「[Blue Prism HubとInteractアップグレードガイド](#)」を参照してください。

 アップグレードが完了したらHubにログインし、CTRL + F5を押してキャッシュをクリアするようユーザーに指示します。これにより、すべてのWebページが更新され、ユーザーインターフェイスの変更が確実に更新されます。

HubとInteract 4.6をバージョン4.7にアップグレードする

このアップグレードではBlue Prism Hub、Blue Prism Interact、および次の.NETコンポーネントを使用するサポートサイトが更新されます。

- .NET Desktop Runtime 6.0.9、または6.0.10
- ASP.NET Core Runtime 6.0.9、または6.0.10(Windowsホスティングバンドル)
- .NET Framework 4.8 – Windows Server 2022にデフォルトでインストールされています。

このアップグレードではSSL暗号化要件も徹底されます。詳細については、「[前提条件下](#)」を参照してください。

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.6がインストールされている。
- 全員がAuthentication Serverからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- Hubおよび/またはInteractのインストール先サーバーに2.5GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。
- SQL ServerはSSL暗号化を使用するように構成する必要があります。所属組織がSSL暗号化をまだ使用していない場合 (SQL Serverの環境を証明書なしで実行しているか、自己署名証明書を使用している)、組織は信頼できる証明局から証明書を取得し、SQL Serverにインポートして有効にする必要があります。-詳細については、「[Microsoftドキュメント](#)」を参照してください。

 SQL ServerにSSL暗号化を使用したことがない場合は、アップグレーダーを実行する前に、Blue Prismアプリケーションのアプリケーション設定ファイルの接続文字列を更新する必要があります。詳細については、「[アプリケーション設定を更新する次のページ](#)」を参照してください。

本番環境では、信頼できる証明局からの証明書を使用します。ただし自己署名証明書は概念実証または開発環境に使用できます。重要なのは、SQL Serverが使用するFQDNが証明書で定義されるFQDNと一致することです。これらが一致しない場合、データベースへの接続が確立されずインストールが正しく機能しません。自己署名証明書の使用と構成については、Blue Prism Hubインストールガイドの「[自己署名証明書](#)」を参照してください。

証明書をSQL Serverにインポートするには:

1. Windowsタスクバーから **[SQL Server構成マネージャー]**を開きます。
2. SQL Server構成マネージャーで **[SQL Serverネットワークの構成]**を展開し、**[SqlServerInstanceName>のプロトコル]**を右クリックして **[プロパティ]**をクリックします。

3. {SqlServerInstanceName>のプロトコルのプロパティ] ダイアログで、 **証明書**] タブを選択し、必要な証明書を選択またはインポートします。
4. **適用**] をクリックします。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アプリケーション設定を更新する

SQL ServerにSSL暗号化を使用していない場合にのみ、Blue Prismアプリケーションのappsettings.jsonファイルを更新する必要があります。アプリケーション設定は、Blue Prismが作成したスクリプトを使用して、または手動で更新できます。

スクリプトを使用してアプリケーション設定を更新するには:

1. SQL Serverに証明書をインポートします。詳細については、「[前提条件 前のページ](#)」を参照してください。
2. Blue Prism Data Protectorをまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードして、HubまたはInteract Webサーバーに保存します。この手順が完了したら、削除できます。
3. アプリケーション設定スクリプト (update-connectionStrings.ps1) をまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードして、HubまたはInteract Webサーバーに保存します。
4. 管理者としてPowerShellを開き、update-connectionStrings.ps1スクリプトを実行します。プロンプトが表示されたら、次の情報を入力します。
 - a. **installationDirectory** – Hubがインストールされている場所のディレクトリパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、デフォルトのインストール場所が使用されている場合、パスはC:\Program Files (x86)\Blue Prismです。
 - b. **sqlSource** – SSL証明書の作成時に使用したSQL Server名を入力し、Enterキーを押します。
 - c. **dataProtectorPath** – Blue Prism Data Protectorへのフルパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、C:ドライブに直接保存する場合は、C:\BluePrismDataProtector.Console.exeと入力します。
 - d. **interactInstallationDirectory** – Interactがインストールされている場所のディレクトリパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、デフォルトのインストール場所が使用されている場合、パスはC:\Program Files (x86)\Blue Prismです。Interactがまだインストールされていない場合は、情報を入力せずにEnterキーを押します。

スクリプトが実行され、アプリケーション設定の接続文字列がSQL Serverの新しい値で更新されます。

5. HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

アプリケーション設定を手動で更新するには:

1. SQL Serverに証明書をインポートします。詳細については、「[前提条件 前のページ](#)」を参照してください。
2. Blue Prism Data Protectorをまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードします。
3. BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。このツールを使用してappsettings.jsonファイルの接続文字列を更新します。このツールの使用に関する詳細については、「[Blue Prism Data Protectorツール ページ12](#)」を参照してください。
4. HubとInteract Webサーバーで次のファイルに移動し、以下のコードスニペットで提示されるセクションを見つけます。

 以下に示すファイルパスはデフォルトのインストール場所です。アプリケーションを別のフォルダーにインストールした場合は、そのフォルダーに移動してください。

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Audit Service\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": {  
  "AuditServerConnection": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Audit Service Listener\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Authentication Server\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": {  
  "IdentityServerConnection": <Replace the string here>  
"Storage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Email Service\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\File Service\appsettings.json

```
"Storage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Hub\appsettings.json

```
"Data": {  
  "Connect": {  
    "ConnectionName": "Connect",  
    "ConnectionString": <Replace the string here>  
  
    "BluePrismDecision": {  
      "ConnectionName": "BluePrismDecision",  
      "ConnectionString": <Replace the string here>  
    }  
  }  
  
  "DistributedCache": {  
    "Type": "Database",  
    "DefaultExpirationMinutes": 0,  
    "SqlServer": {  
      "ConnectionString": <Replace the string here>  
    }  
  }  
  
  "Storage": {  
    "Type": "Database",  
    "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\IADA\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Interact\appsettings.json

```
"InteractDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>  
  
"DistributedCache": {  
  "Type": "Database",  
  "DefaultExpirationMinutes": 0,  
  "SqlServer": {  
    "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Interact Remote API\appsettings.json

```
"InteractRemoteDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>  
  
"InteractRemoteStorage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\License Manager\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Notification Center\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Submit Form Manager\appsettings.json

```
"SubmitFormManagerDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>
```

5. これらのファイルそれぞれについて、次の操作を行います。

- a. Blue Prism Data Protectorツールを使用して接続文字列を復号し、一時テキストファイルにコピーします。例：

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString":
  "CfDJ8MILtsx8cQB0rqrAat15A1aLmLP1GodofWtNhvaHwh0ryabXaXW2i-KTfsq2XTYuAzct_
  ZXIFS3ILFv4Zu5ozmtvHv9aOLCxZjQJEUm7Ytwx8dK1Zqapywv2s5TCoi4X_9MGselkrRmbknBuQ_
  zWE93ozrN1BUVCQNHVedkyjTTPmPnxyeIgjJdoZRbkkOupnSrJwTt95SCmvo2SLLhZZFR5e2s24smn72PKNGrg
  a8fksbIDpalDFwRc-i6_kkEinp5qA-FBFfIbVzZBD5ZN1dyuaC2jM7V4dxKt5tea1NP-_
  vauczgCLBp88WdmNEe0Ew"
```

次のようになります。

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString": "Data Source=existed-name-without-certificate;
  Initial Catalog=Interact; User Id=sa; Pass=Pass***; Max Pool Size=500; Encrypt=False;
  MultiSubnetFailover=True"
```

 上記ステップ4の例は、設定の場所を説明するために、appsettings.jsonファイルから抽出したものを示しています。復号と暗号化はこれらのコード例にも示されているとおり、設定ではなく、接続文字列設定でのみ実行されます。

接続文字列のData Sourceのみを更新する必要があります。接続文字列設定の他のパラメーターは変更しないでください。アップグレードスクリプトは、Encryptパラメーターの更新など、実行時に必要な変更を行います。

- b. コピーした接続文字列で、Data Sourceパラメーターの値を証明書の名前に置き換えます。例：

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString": "Data Source=name-with-certificate; Initial
  Catalog=Interact; User Id=sa; Password=Pass***; Max Pool Size=500; Encrypt=False;
  MultiSubnetFailover=True"
```

 証明書名はSQL Server構成マネージャーで確認できます。

1. SQL Server構成マネージャーで **[SQL Serverネットワークの構成]**を展開し、**[SqlServerInstanceName>のプロトコル]**を右クリックして **[プロパティ]**をクリックします。
2. **[SqlServerInstanceName>のプロトコルのプロパティ]**ダイアログで、**[証明書]**タブを選択します。証明書名は **[発行先]**フィールドに表示されます。短い名前の後に共通名(通常はFQDN)が続く形式で表示されます。いずれの名前もデータソースとして使用できますが、両方の名前がある場合は、共通名(FQDN)を使用することをお勧めします。
3. オプションとして、**[表示]**をクリックして **[サブジェクト代替名]**を選択すると、さらに詳細を確認できます。名前はフィールドの下のテキスト領域に表示されます。

- c. Blue Prism Data Protectorツールを使用して新しい接続文字列を暗号化し、この新しい値でappsettings.jsonファイルの文字列を上書きします。

 接続文字列の復号と暗号化の詳細については、「Blue Prism Data Protectorツール ページ12」を参照してください。

6. IISマネージャーを開き、適切なアプリケーションプールを再起動して、新しい接続文字列を使用していることを確認します。
7. HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

アップグレード手順

1. Blue Prism HubとBlue Prism Interact 4.7には.NET Core 6.0と.NET Framework 4.8が必要です。これらのバージョンがない場合は、HubまたはInteract Webサーバーを更新する必要があります。

ステップ	詳細
1	<p>次のコンポーネントをダウンロードし、C:\tempなどの一時的な場所に保管します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ASP.NET Core Runtime 6.0.9、または6.0.10(Windowsホスティングバンドル) https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/6.0 – 必要なバージョンを選択します。 ASP.NET Core Runtimeで、ホスティングバンドルを選択します。 • .NET Desktop Runtime 6.0.9、または6.0.10 https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/6.0 – 必要なバージョンを選択します。 .NET Desktop Runtimeで、適切なダウンロードを選択します。 • .NET Framework 4.8 https://support.microsoft.com/en-us/topic/microsoft-net-framework-4-8-offline-installer-for-windows-9d23f658-3b97-68ab-d013-aa3c3e7495e0 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> これはWindows Server 2022にデフォルトでインストールされます。Windows Server 2016 DatacenterまたはWindows Server 2019を使用している場合、.NET Frameworkのみをインストールする必要があります。</p> </div>
2	<p>.NET依存関係をインストールするには、PowerShellコマンドプロンプトを使用して次の各コマンドを実行し、各コマンドが完了するまで待機してから、次のコマンドを実行します。</p> <p>Windows Server 2016およびWindows Server 2019の場合：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre>start-process "C:\temp\dotnet-hosting-6.0.0-win.exe" /q -wait start-process "C:\temp\windowsdesktop-runtime-6.0.0-win-x64.exe" /q -wait start-process "C:\temp\ndp48-x86-x64-allos-enu.exe" /q -wait</pre> </div> <p>Windows Server 2022(デフォルトで.NET Frameworkがインストール済み) の場合：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre>start-process "C:\temp\dotnet-hosting-6.0.0-win.exe" /q -wait start-process "C:\temp\windowsdesktop-runtime-6.0.0-win-x64.exe" /q -wait</pre> </div> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> ファイル名とファイルパスが、手順1で保存したファイルと一致していることを確認します。</p> </div>
3	<p>Blue Prism Hubをインストールする前にサーバーを再起動し、コンポーネントが完全にインストールされ、登録されていることを確認します。</p>

 このインストール手順を視聴するには、[.NETのインストールビデオ](#)を参照してください。

- バージョン4.6から4.7用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
- HubとInteract 4.6がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。
 - Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe – アップグレーダー実行可能ファイル。
 - BluePrismHubAndInteractUpdate4.7.bin – 4.7へのアップグレードに必要なバイナリファイル。これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。
- 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ** をクリックします。

 アップグレーダーは手順1の前提条件ソフトウェアがインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は前提条件画面が表示され、インストーラーを閉じて手順1を実行する必要があります。

- 使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ** をクリックします。
- [4.7へのアップグレード準備完了]画面で、**次へ** をクリックしてHubとInteractを4.7にアップグレードします。
- [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。
 - アップグレードが正常に完了したら、**終了** をクリックします。
 - インストールが失敗した場合は、**ログを表示** オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
- HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

Blue Prism Data Protectorツール

Blue Prism Data Protectorツールを使用して、appsettings.jsonファイルに格納されている接続文字列を復号および暗号化します。セキュリティ上の理由から、接続文字列は暗号化されますが、Blue Prism Data Protectorツールでは文字列を復号できるため、必要に応じて変更して再度暗号化できます。

BluePrismDataProtector.Consoleツールはコマンドラインツールで、管理者として実行しているWindows PowerShellで使用する必要があります。

接続文字列を復号する

ツールを使用して接続文字列を復号するには:

- Blue PrismポータルからBluePrismDataProtector.Console.exeファイルをダウンロードし、デバイスの任意の場所に保存します。
- BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。
管理者: Windows PowerShell] ウィンドウが表示されます。

 コマンドラインに「.\BluePrismDataProtector.Console.exe」と入力してEnterを押すと、使用可能なコマンドのリストが表示されます。

- Windowsエクスプローラーから、復号する文字列を含むappsettings.jsonファイルを開き、コピーします。
例：

```
"HubServiceBus": {  
  "Connection": "CfDJ8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Ty1-Z_EZ0Zn16mYfv_23Q2D2waPDTBXaz4-viNO2Akk-S5C73dNjOdGHifGCxSIftwExJ304FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw",  
  "Topic": "thttopic",  
  "Subscription": "Hub",  
}
```

- PowerShellで、次のように入力します。

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe unprotect -v "[string]" -p "[path]"
```

ここでは、

[string] = ファイルからコピーされた文字列

[path] = DataProtectionKeysへのパス。通常は、C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys

例：

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe unprotect -v "CfDJ8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Ty1-Z_EZ0Zn16mYfv_23Q2D2waPDTBXaz4-viNO2Akk-S5C73dNjOdGHifGCxSIftwExJ304FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw" -p "C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys"
```

- Enterキーを押します。
文字列が復号され、暗号化されていない値がPowerShellに表示されます。

接続文字列を暗号化する

ツールを使用して接続文字列を暗号化するには：

- BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。
管理者: Windows PowerShell] ウィンドウが表示されます。



コマンドラインに「.\BluePrismDataProtector.Console.exe」と入力してEnterを押すと、使用可能なコマンドのリストが表示されます。

- PowerShellで、次のように入力します。

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe protect -v "[string]" -p "[path]"
```

ここでは、

[string] = 暗号化する文字列

[path] = DataProtectionKeysへのパス。通常は、C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys

例：

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe protect -v "Str0ngP@Ssw0rD" -p "C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys"
```

- Enterキーを押します。
文字列が暗号化され、PowerShellに値が表示されます。例：
CfDJ8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Ty1-Z_EZ0Zn16mYfv_23Q2D2waPDTBXaz4-viNO2Akk-S5C73dNjOdGHifGCxSIftwExJ304FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw
- 暗号化された文字列をappsettings.jsonファイルの適切な場所にコピーし、ファイルを保存します。

5. IISマネージャーを開き、適切なアプリケーションプールを再起動して、新しい接続文字列を使用していることを確認します。

 PowerShell自体のコマンドに関連付けられている文字列に文字がある場合、意図したとおりにPowerShellが文字列を受け入れるように、文字列にエスケープ文字を追加する必要があります。以下のような例：

- 「`」と「\$」は、文字の前に「`」(バックティック)が必要です。たとえば「Str0ng`P@\$W0rD」は、コマンドラインで「Str0ng`P@`\$W0rD」と入力する必要があります。
- 「"」は、文字の前に「\"」が必要です。たとえば、「P@\$"W0rD」は、コマンドラインで「P@`\$\"W0rD」と入力する必要があります。

これらの追加エスケープ文字により、文字列の整合性が維持されます。結果の暗号化値が再び復号された場合、値はコマンドラインバージョンではなく元の文字列と一致します。

旧リリース

Interact 4.6 – 2022年6月

このリリースノートは、Blue Prism® Interactの4.6リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
Audit	<p>フォームと送信の監査の機能が強化されました。</p> <p>監査イベントの更新のリストについては、「Blue Prism Hub 4.6リリースノート」を参照してください。</p>	
Interactプラグイン – フォーム	<p>Hub管理許可のないユーザーが役割にInteractフォームを割り当てることができるように、Interactプラグインの機能が拡張されました。ユーザーは 基本情報を編集 ページまたは フォームを作成 ページでフォームを役割に割り当てることができます。</p> <p>詳細については、「」「フォームをデプロイする」を参照してください。</p>	HUB-2819
	<p>新しい Interact役割 フィルターを使用すると、ユーザーは役割名でフォームを検索できます。</p> <p>詳細については、「」「フォームを検索する」を参照してください。</p>	HUB-2904
	<p>送信者 ドロップダウンにすべてのHubユーザーが表示されるようになりました。これまで、このドロップダウンにはInteractフォームにアクセスできるユーザーのみが含まれていました。</p>	HUB-2898 HUB-3123
	<p>フォームに承認タイプが設定されると、新しい 送信者を除外 オプションが表示されます。これはデフォルトで選択されており、フォーム送信者が自身の送信を承認できないようにします。</p> <p>詳細については、「」「Interactフォームを作成する」を参照してください。</p>	INTER-147
	<p>罫線 フィールドと 段落 フィールドにオートメーションIDが追加されました。これにより、必要に応じてフィールドを自動化プロセスで操作できます。</p>	HUB-2179
	<p>フォームを削除すると、フォームが関連付けられているビジネスプロセスの全メンバーのBlue Prism Hubに通知が表示されるようになりました。</p>	INTER-58

エリア	変更の説明	参考資料
Interact Webアプリケーション	<p>ユーザーがフォームを送信する際の手順を合理化するために、以下の機能が強化されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーがInteractの [ホーム] ページのタイルをクリックすると、フォームに直接移動し、情報の入力を開始できます。これまでは [ホーム] ページにサマリーパネルが表示され、ユーザーは再度クリックしてフォームに移動する必要がありました。サマリー情報がフォーム上の左側パネルに表示されます。 • フォームの [送信] ボタンの横に 別のものを送信 オプションが追加されました。ユーザーがフォームの送信時にこれを選択すると、新しいフォームが表示され、[ホーム] ページに戻ることなく別の一連の情報を入力できます。 このオプションは [送信履歴] または [承認待ち] セクションから複製されたフォームでも利用できます。 • [ホーム] ページの 並べ替え ドロップダウンリストに 最近の完了 オプションが追加されました。 • ユーザーインターフェイスのユーザーパスが更新され、ユーザーのクリック数を減らしたり、ユーザーをユーザーインターフェイスの論理領域に戻したりします。 	<p>INTER-189 INTER-132</p>
	<p>フォームを役割に送信できるようになりました。フォームはその役割に割り当てられているすべてのユーザーに送信され、[マイワーク] タブに表示されます。その役割のユーザーは誰もが直接フォームを受信したかのように作業ができますが、役割のユーザーの1人がフォームで作業を開始すると、他のすべてのユーザーに対してロックされます。フォームで作業しているユーザーが、受信トレイの新しい ロック者 列に表示されます。</p>	<p>INTER-195 INTER-146</p>
	<p>役割に送信を送信する機能をサポートするために、Interactに新しい通知が追加されました。オプションには以下のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Digital Workerがあなたのグループに送信を割り当てました – 新しい送信を受信したことを役割のユーザーに通知します。 • ユーザーがDigital Workerによる送信を完了しました – その役割のユーザーの1人が送信に必要なアクションを完了したことを、同じ役割の他のユーザーに通知します。この送信は役割の他のユーザーに対して、アクションの待機中ではなくなります。 • ユーザーがDigital Workerによる送信を削除しました – その役割のユーザーの1人が送信を削除したことを、同じ役割の他のユーザーに通知します。この役割の他のユーザーはこの送信を使用できなくなります。 <p>詳細については、「Interact Webアプリケーションユーザーガイド」を参照してください。</p>	<p>INTER-143 INTER-222</p>
Interact API	<p>どのユーザーでも送信を生成・作成できるようになり、Interactフォームにアクセスできるユーザーに限定されなくなりました。</p>	<p>HUB-2899</p>

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
インストーラーとアップグレーダー	Interactインストーラーまたはアップグレーダーを中国語で実行する場合、すべての画面タイトルが正しく表示されるようになりました。これまでは画面タイトルの一部が見切れていました。	LOC-720
Interactプラグイン - フォーム	新しいテキストまたは [テキスト領域] フィールドをHubのInteractフォームに追加すると、 別に作成 の切り替えが 作成 ページに正しく表示されるようになりました。これにより、Interact 4.5に存在する既知の問題が解決されます。	HUB-2461
	ユーザーがフォームで 日付 フィールドを追加または編集する場合、ユーザーが すべてをリセット をクリックするとすべてリセットされるようになりました。これまでは 日付 フィールドの設定が 初期値 とは別にリセットされ、値は保持されていました。これでリセットされます。	HUB-2317
	[テキスト領域] フィールドを使用するルールが作成されると、 値 が複数行のフィールドとして表示されるようになりました。これまで、これは単一行のフィールドとして表示されていました。	HUB-1664
	ルールの 送信者 フィールドが複数回選択された場合に正しく入力されるようになりました。これまではユーザーが送信者を選択し、別の送信者に変更した場合、フィールドには空の値が記録されました。	HUB-3090
	ユーザーがフィールドを検索して結果をクリックすると、一致するフィールドが強調表示されるようになりました。これまではフォームはフィールドまでスクロールしていましたが、強調表示はされませんでした。	HUB-2027
	Interactフォーム名にパイプ文字「 」を含み、Hub管理者がHubの 役割と許可 ページで新しいInteract役割を作成しようとする場合、Interact役割が正常に作成できるようになりました。これにより、Interact 4.5に存在する既知の問題が解決されます。	HUB-2911
	Interact役割を持つフォームが2人のユーザーに割り当てられ、すべてのフィールドまたはすべてのページに適用されるルールが2人に対して作成された場合（ ルールを作成 画面の 送信者 フィールドで 送信者 として選択）、フォームを開くとフィールドまたはページが正しく表示されるようになりました。これまではページが誤って表示され、最初のユーザー（送信者）がInteractで開くと、フィールドが表示されていなかったりボタンが無効になったりしていました。	HUB-2959
	これまではユーザーがルールのあるフィールドを1つのページから別のページに移動するとフィールドのないページになり、コンソールに <code>TypeError</code> が返され、 Interactフォーム ページがブラウザーで空白に表示されていました。この問題は発生しなくなり、エラーが発生することなくフィールドを移動できます。	HUB-3756
	フォームが削除されると通知が表示されるようになりました。	HUB-1570
	000.00:00:00のSLAは、キューセクションの下のInteractフォームに入力できなくなります。SLAが必要な場合は、1秒以上でなければなりません。	HUB-1700

エリア	変更の説明	参考資料
Interact Webアプリケーション	Interact Webアプリケーションでは、カスタムテーマで定義された色が正しく適用されるようになりました。これまではInteractで使用するテーマをBlue Prism Hubで作成した場合、Interactのボタンの一部がデフォルトで青色のままでした。これらのボタンはテーマで設定された色で表示されるようになりました。	HUB-1894
	Interact承認者がフォームを承認できる回数が1回のみとなりました。承認をクリックすると、承認オプションが無効になり、それ以上クリックできなくなります。これまでは最初の承認クリックの応答が遅い場合、承認者は承認を複数回クリックし続けることができ、その結果、複数の承認通知とワークキュー項目を生成していました。	HUB-3673

Web API サービスの更新

Interactのこのリリースの一環として、

- Interact Remote APIがバージョン2に更新されました。
- Blue PrismのInteract API サービスのリリースファイルがバージョン1.6に更新されました。

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料												
アクション	<p>次のアクションがInteract Remote APIに追加され、Web APIサービスとユーティリティに関連するアクションも追加されました - Interact API Blue Prism VBOはBlue Prismインタラクティブクライアントで利用できます(最新のリリースファイルをインポートすること)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Interact Web API</th> <th>Blue Prism VBO: ユーティリティ - Interact API</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>役割名別に役割IDを取得</td> <td>役割名別に役割IDを取得 - 新しいアクション</td> </tr> <tr> <td>フォーム名別に役割を取得</td> <td>フォーム名別に役割を取得 - 新しいアクション</td> </tr> <tr> <td>トランザクション別に送信を取得</td> <td>トランザクションIDで送信を取得 - 社内で使用: 送信を作成 送信を生成 役割に送信を生成</td> </tr> <tr> <td>役割に送信を生成</td> <td>役割に送信を生成 - 新しいアクション</td> </tr> <tr> <td>トランザクションID別に送信フィールド値を編集</td> <td>トランザクションIDを取得 - 罫線ルールのパディングを編集]と段落フィールド値を編集]で内部的に使用されます。</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらにInteract Web APIの [送信フィールド値を編集] が更新され、 [段落] と [罫線ルール] フィールドが追加されました。</p>	Interact Web API	Blue Prism VBO: ユーティリティ - Interact API	役割名別に役割IDを取得	役割名別に役割IDを取得 - 新しいアクション	フォーム名別に役割を取得	フォーム名別に役割を取得 - 新しいアクション	トランザクション別に送信を取得	トランザクションIDで送信を取得 - 社内で使用: 送信を作成 送信を生成 役割に送信を生成	役割に送信を生成	役割に送信を生成 - 新しいアクション	トランザクションID別に送信フィールド値を編集	トランザクションIDを取得 - 罫線ルールのパディングを編集]と段落フィールド値を編集]で内部的に使用されます。	<p>INTER-150</p> <p>HUB-2179</p>
Interact Web API	Blue Prism VBO: ユーティリティ - Interact API													
役割名別に役割IDを取得	役割名別に役割IDを取得 - 新しいアクション													
フォーム名別に役割を取得	フォーム名別に役割を取得 - 新しいアクション													
トランザクション別に送信を取得	トランザクションIDで送信を取得 - 社内で使用: 送信を作成 送信を生成 役割に送信を生成													
役割に送信を生成	役割に送信を生成 - 新しいアクション													
トランザクションID別に送信フィールド値を編集	トランザクションIDを取得 - 罫線ルールのパディングを編集]と段落フィールド値を編集]で内部的に使用されます。													

エリア	変更の説明	参考資料
	<p>次のアクションがユーティリティに追加されました - Interact API Blue Prism VBO:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 罫線ルールのパディングを編集 • 段落フィールド値を編集 • トランザクションIDで送信を取得 • トランザクションIDを取得 • フォーム名別に役割を取得 • 役割名別に役割IDを取得 • 役割に送信を生成 <p>送信を作成]アクションでInteract Remote API v2を使用する場合、パスワードパラメーターがオプションになりました。</p>	<p>HUB-2179</p> <p>INTER-150</p> <p>INTER-159</p>
Interact Remote API	<p>Interact Remote APIのバージョン2が使用可能になりました。更新には以下の機能が含まれますが、これらに限定されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デジタルワーカーが段落フィールド値とその状態を操作するためのサポート (表示/非表示) • デジタルワーカーが 罫線ルール]フィールドの上部パディングと下部パディング、およびその状態 (表示/非表示) を編集するサポート • 新規および更新されたエンドポイント： <ul style="list-style-type: none"> • POST api/v2/get-submission • POST api/v2/submission – このバージョンの [パスワード]フィールドはオプションになりました。 • POST api/v2/submission/raise • POST api/v2/submission/role/raise • PUT api/v2/config-of-submission • PUT api/v2/status-of-submission • PUT api/v2/submission 	<p>HUB-2179</p> <p>INTER-168</p>

Interact Web API サービスの詳細については、「」[ユーザーガイド](#)」を参照してください。

制限事項

Interactの役割でのActive Directoryの使用

InteractにはActive Directoryセキュリティグループとの限定的な互換性があります。Interact Remote APIのユーザー関連アクションの一部は、セキュリティグループをサポートしていませんが、Interactの役割に直接割り当てられたユーザー(Active Directoryユーザーを含む)をサポートしています。

Active Directoryを使用しており、Interact Remote APIを使用して「送信を作成」と「送信を生成」のアクションを使用する場合は、アクションが正しく機能するように、HubのInteractの役割にユーザーを直接割り当てる必要があります。これらのアクションは、Active Directoryセキュリティグループの使用をサポートしていません。ただし、セキュリティグループを使用するように役割を構成すれば、「役割に送信を生成」アクションを使用できます。

次の表は、入力または出力においてユーザー情報を利用するアクションと、Active Directoryとの互換性をまとめたものです。

Interactの役割を持つActive Directoryセキュリティグループの使用をサポート	Active DirectoryユーザーのInteractの役割への直接割り当てをサポート
役割に送信を生成	送信を作成 送信を生成 役割に送信を生成 フォーム名別にユーザーを取得 フォーム名別に役割を取得

ロールの構成については、「」[Blue Prism Hub管理者ガイド](#)」を参照してください。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準(FIPS) 文書140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準(PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律(HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法(FISMA)。

コンプライアンスハイライトサマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

Interact 4.5 – 2021年11月

このリリースノートは、Blue Prism® Interact4.5リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
インストーラーとアップグレーダー	Interactインストーラー、HubとInteractのアップグレーダーが複数の言語で利用可能となりました。ユーザーは、ウィザードの最初の画面で言語を選択できます。 サポートされている言語のリストについては、「ローカリゼーション」を参照してください。 詳細については、「Interactのインストールガイド」または「アップグレードガイド」を参照してください。	HUB-2443
Interactプラグイン – フォーム	Interactフォームの パラグラフキャプチャ フィールドタイプに新しい機能が追加され、 ハイパーリンク をテキストに追加できるようになりました。詳細については、「 フォームでキャプチャタイプを使用する 」を参照してください。	INTER-77

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
Interactプラグイン – フォーム	InteractフォームがBlue Prismキューを参照する方法が改善されました。これには、以下が含まれます： <ul style="list-style-type: none"> ワークキューの名前をBlue Prism内で変更した場合、Interactフォームのキュー名の横にある更新アイコンを使用すると、キューリストに最新の名前が反映されます。 フォームでは、その名前ではなく、ワークキューの一意の識別子が使用されます。これにより、名前が変更されても、同じワークキューがフォームに使用されるようになります。Interactフォームのユーザーインターフェイスに変更はありません。フォームを作成する際、ユーザーはワークキューの名前を選択して簡単に使用できます。 	INTER-52

エリア	変更の説明	参考資料
Interact	<p>アップロードされたファイルを含む送信を表示するときに、新しく ダウンロード ボタンが追加されました。 ダウンロード ボタンは、以下の画面で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下書きの送信 ユーザーの受信トレイ内の送信 承認が必要な送信 履歴 タブ下の送信 <p>ダウンロード ボタンを使用すると、添付ファイルを確認できます。これまでは、送信が受信トレイにあるときに添付ファイルをダウンロードできませんでした。</p>	HUB-1825
	<p>フィールドのない隠しページが含まれている場合の、送信履歴に送信フォームが表示されない問題は修正されました。フォームはInteractの 履歴 タブの 送信履歴 セクションに表示されるようになりました。</p>	HUB-2350
	<p>Interactのパフォーマンスが改善されました。この機能強化の一環として、次の変更が加えられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信カウンターが削除されました。これまでは、Interactの ホーム タブでフォームを選択したときに 選択 ボタンの上に表示されていました。 最も頻繁に使用される フィルターが削除されました。これまでは、Interactの ホーム タブの 並べ替え 下にオプションとして表示されていました。 	HUB-2322 HUB-2324

Web APIサービスの更新

このリリースでは、Interact APIサービスのリリースファイルに変更は加えられていません。

Interact Web APIサービスの詳細については、「[ユーザーガイド](#)」を参照してください。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準 (FIPS) 文書 140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。

コンプライアンスハイライト サマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

Interact 4.4 – 2021年9月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism® Interact(Interact)の4.4リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
Interactプラグイン – フォーム	Interact – フォームのユーザーインターフェイスはさらに改良され、使いやすさと読みやすさが向上しました。ユーザーインターフェイスの詳細については、「 Interactフォームを作成する 」を参照してください。	HUB-1093
	<p>テキストキャプチャタイプに次の機能強化が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 送信時にデータを消去]という新しいオプションが追加されました。テキストフィールドの設定時にこれを選択した場合、Interactユーザーがこのフィールドに入力したデータはフォームの送信時にすべて削除され、Interactデータベースに保存されず、Blue Prism® Hubの監査ログにも表示されません。データはBlue Prismデータベースおよびフォームの自動化プロセスの一部として構成されている任意の追加ストレージ送信先にのみ保存されません。 <p>このオプションが設定されているフィールドでは、情報アイコンがテスト領域のフィールドの横に表示されます。ユーザーがマウスポインターをアイコンの上に移動すると、ツールチップが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 送信時にデータを隠す]は、このフィールドの機能を反映するよう 入力時にデータを隠す]に名称変更されました。機能上の変更は行われていません。 <p>テキストキャプチャタイプの詳細については、「フォームでキャプチャタイプを使用する」を参照してください。</p>	INTER-48 HUB-1118 HUB-1594 HUB-1618
	新しいキャプチャフィールドタイプがInteractフォームの テキスト領域 に追加されました。 テキスト領域]フィールドはフォームに追加でき、ユーザーは複数行のテキストフィールドに最大3,500文字を入力できます。正規表現とルールの使用をサポートしています。詳細については、「 フォームでキャプチャタイプを使用する 」を参照してください。	INTER-64
	フォームを削除できる新機能が追加されました。詳細については、「 フォームを削除する 」を参照してください。	INTER-57
	Interactフォームイベントの監査が追加されました。監査イベントは、Blue Prism® Hubの [Audit] ページからアクセスできます。新しいInteractカテゴリーフィルターに加えて、次のイベントフィルターを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 作成済みフォーム ● 削除済みフォーム ● フォームのメジャーバージョンを増加 	HUB-1117

エリア	変更の説明	参考資料
Interact	新しい 送信時にデータを消去] オプションがテキストフィールドに設定されている場合、情報アイコンがフィールドラベルの横に表示されます。Interactのユーザーがアイコンの上にマウスポインターを置くと、このフィールドのデータが消去されることを知らせるツールチップが表示されます。データはInteractデータベースには保存されず、Blue Prismデータベースおよびフォームの自動化プロセスの一部として構成されている任意の追加ストレージ送信先にものみ保存されます。	INTER-48 HUB-1594
Interact API	テキスト領域] フィールドとファイルの置換をサポートする機能が追加されました。「 Web APIサービスの更新 次のページ 」を参照してください。	INTER-64

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
インストーラー	Interact 4.4では不要になったため、 [Interact Cache SQLの構成] 画面がインストールウィザードから削除されました。	HUB-1515
	インストーラーの最後にInteract Remote APIシークレットキーが表示されなくなりました。シークレットキーは、Interact Remote APIのHubのサービスアカウントで生成されるようになりました。	HUB-1564
Interactプラグイン - フォーム	[ルールを編集] ページの問題が修正されました。以前は、アップロードを最大ファイルサイズに制限するルールを作成した場合、そのルールは正しく適用されず、ルールで指定された最大サイズよりも小さい場合でもアップロードできませんでした。	HUB-1233
	フィールドをキーフィールドに設定した場合、フィールドを削除して再作成しなくても、そのキーをフィールドから削除できるようになりました。	INTER-51
	[フォームの作成] ページが改良されました。ユーザーが プリセットアイコン] をクリックすると、ページが アイコンカテゴリー] フィールドの下に表示されるアイコンのリストの末尾までスクロールし、アイコンを簡単に表示、選択できるようになります。以前は、 プリセットアイコン] リンクがブラウザウィンドウの下部にあった場合、アイコンが表示領域の下に現れ、ユーザーは手動でスクロールダウンして見つけなければならませんでした。	INTER-50
	アップロードフィールドとメール配信タイプがあるフォームのファイルをInteract Remote APIを介してアップロードする場合、メールで送信されたリンクをクリックすると、アップロードされたファイルが正常に開くようになりました。以前は、メール内のリンクをクリックするとエラーが表示されていました。	HUB-2168

エリア	変更の説明	参考資料
Interact	「何らかの問題が生じた」というエラーメッセージを表示しながら、Interactが継続的に再ロードしようとするという問題が解決されました。Interactは正常にロードするようになりました。この問題は、不正なトークン更新が原因であり、Windows認証を使用してSQL Serverで認証を行う環境で報告されていました。	HUB-1201 HUB-1299
	ALMライセンスを適用してシステムを再起動した後、HubとInteractにアクセスできなかった問題が修正されました。ログイン後に表示される選択画面からHubを選択すると、「HTTPエラー502.5 - ANCMプロセス外起動失敗」というメッセージが表示され、選択画面ではInteractが利用不可と表示されました。Blue Prism HubとBlue Prism Interactに、これらの問題が発生することなくアクセスできるようになりました。	DS-597 HUB-2300 IADA-102

Web APIサービスの更新

Interactのこのリリースの一部として、Interact APIサービスリリースファイルがバージョン1.5に更新されました。

このバージョンのInteractでは、Web APIサービスとユーティリティ(Interact API Blue Prism VBO)に以下の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
アクション	新しい テキスト領域フィールド値を編集 アクションが追加されました。このフィールドでは、テキスト領域フィールドの値を3,500文字までのテキストで更新できます。
	新しい アップロードフィールド値を編集 アクションが追加されました。このフィールドでは、イメージやドキュメントなどのファイルを置き換えることができます。このフィールドは、送信時の既存のファイルを置き換えるためのみ使用でき、送信内容に新しいファイルを追加するためには使用できません。
	送信を作成 と 送信を生成 が改善され、ユーザーエクスペリエンスが強化されました。Blue Prismのベストプラクティスに従います。VBO内のアクションが簡素化され、ユーザーがプロセスフローを明確に確認できるようになりました。両方のアクションで使用される静的フローは、Object Studioでユーザーのビジュアルオートメーションプロセスを混乱させないように、別の未公開ページ(送信用にJSONをクリーニング)に移動しました。

Interact Web APIサービスの詳細については、「[ユーザーガイド](#)」を参照してください。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。 [詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。 [詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準(FIPS) 文書140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。

- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。

コンプライアンスハイライト サマリーレポートを入手するには、製品 サポートにリクエストしてください。

Interact 4.3 – 2021年5月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Interact(Interact)の4.3リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
フォーム	<p>Interactフォームが次のように機能強化されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【フォームを作成】ページの【キュー名】フィールドの隣に、キューが配信方法として選択されたときに表示される更新アイコンがあります。クリックすると、選択した環境から更新アイコンがキューのリストを引き出し、ユーザーは必要なキューを選択できます。以前は、Hub管理者のみが【環境管理】ページでキューを更新できました。 【タイプを変更】アイコンが、異なるフィールドタイプの【field type】を作成【ページ】に追加されました。これにより、ユーザーは異なるフィールドタイプを選択して切り替えることができます。【field type】を作成【ページ】に入力した情報は失われます。 【フィールドを検索】アイコンが【フォームを編集】ページに追加されました。ユーザーがこのアイコンをクリックすると、【フィールドを検索】パネルが表示されます。これにより、ユーザーはフィールドタイプ、または名前や説明の一部を入力して、フォーム内のフィールドを見つけることができます。一致する結果はすべてパネルに表示されます。 【テストを実行】エリアは、【フォームを編集】ページの新しいテストエリアに移動しました。ユーザーは、最終フォームのインタラクティブなモックアップを見て、フォームをデザインして作成しながらフィールドをテストすることができます。 ツールチップがラベルなしのアイコンに追加され、【フィールドを作成】または【ルールを作成】ラベルが + アイコンの横に追加されました。 【フィールドを作成】ページまたは【ルールを作成】ページで【別に作成】を選択すると、ユーザーは新しいページまたはルールの作成時にページの先頭に戻り、次のアイテムの情報を入力できます。 	HUB-791

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
フォーム	<p>【時間タイプ】フィールドがフォームに追加され、初期状態が【読み取り専用】に設定されている場合、テストエリアではユーザーが時間を変更することはできません。以前は【テストを実行】エリアで、時間フィールドの最後にある十字をクリックし新しい時間を入力していました。</p>	HUB-694
	<p>番号フィールドタイプのプレフィックス文字の表示が改善され、定義されたプレフィックス文字が1行に収まるようになりました。以前は、番号フィールドの作成時にスペースに【プレフィックス文字】フィールドが含まれていた場合、文字は【テストを実行】とInteract自体の2行に表示されました。改行は、スペースが入力された場所で行われます。</p>	HUB-704

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

Interact 4.2 – 2021年4月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Interact(Interact)の4.2リリース用です。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
API	送信を作成] と 送信を生成] でファイルのアップロードが可能になりました。 「 Web APIサービスの更新 次のページ 」を参照してください。
アプリケーション	Interactユーザーインターフェイスが再設計されました。
履歴	履歴] はInteractの新しいタブです。 履歴] タブには、送信履歴、承認待ちアイテム、アーカイブ済みアイテムが含まれます。
ローカリゼーション	IMSのログインページとInteractは、ブラウザのユーザーの言語設定と互換性のある言語で表示されるようになりました。ユーザーがブラウザ設定でサポートされていない言語を選択した場合、デフォルトとして英語が使用されます。必要に応じて、ユーザーはログインページのドロップダウンリストから使用する言語を手動で変更できます。
マイワーク	マイワーク] はInteractの新しいタブです。これには、下書きと受信トレイが含まれます。
通知	通知] はInteractの新機能です。次のタイプの通知が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 送信が承認されました 送信が却下されました 送信にはあなたの承認が必要です Digital Workerが送信を割り当てました この機能強化の一環として、通知パネルの下部にある アーカイブされた通知を表示] リンクをクリックして、アーカイブされた通知を表示することもできます。アーカイブされた表示では、タイプに基づいて通知をフィルタリングできます。 詳しくは、「 Interact通知 」を参照してください。
サポート対象のソフトウェア	InteractはAzure SQLデータベースの使用をサポートするようになりました。

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明
アプリケーション	Interactの承認者は、送信を却下する場合、理由の入力を求められるようになりました。
インストーラー	Interactインストーラーには、次の変更が行われました。 <ul style="list-style-type: none"> SignalRをインストールする画面が削除されました。これは、Hubのインストールの一部としてインストールされます。 IADA SQL接続を構成する画面が追加されました。

Web APIサービスの更新

このバージョンのInteractでは、Web APIサービスとユーティリティ(Interact API Blue Prism VBO) に以下の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
アクション	新しい ファイルをアップロード]アクションがInteract Web APIとユーティリティ (Interact API Blue Prism VBO) に追加されました。ファイルをアップロードして、 送信を作成]および 送信を生成]アクションで使用できます。

Interact Web APIサービスの詳細については、「」[「ユーザーガイド](#)」を参照してください。

Interact 4.1 – 2020年11月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Interact(Interact) の4.1リリース用です。

アップグレード

Blue Prism InteractおよびHubアップグレーダーは、カスタマーポータルからダウンロードできます。この使いやすいツールは4.0から4.1にアップグレードされます。詳しくは、「[HubとInteract 4.0をバージョン4.1にアップグレードする](#)」を参照してください。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
API	<p>2つの新しいAPIが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 送信を生成 – Digital Workerは、Interactユーザーに代わって送信を実行できます。これにより、人間とDigital Workerのコラボレーションが根本的に強化されます。 ● フォームアクセス別にユーザーを取得 – Digital Workerは、指定したフォームにアクセスできるさまざまなユーザーを表示できます。これは、上述の新しい「送信を生成」APIに必要です。
フォーム	<p>Interactフォームがワークキューに送信された場合に、送信者の詳細が含まれるようになりました。送信者の情報は、自動化の一部として使用できます。この情報には、ユーザーのHub ID、ユーザー名、名、姓が含まれます。</p>
インストーラー	<p>Interactインストーラーには、次の機能強化が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● APIキーを画面に表示する – インストールの終了時にInteract Remote APIシークレットキーが表示され、ユーザーのクリップボードにコピーできます。このキーは、Blue PrismでInteract APIをセットアップするために使用されます。このキーは、インストールのルートディレクトリに保存されます。 ● SQL画面の強化： <ul style="list-style-type: none"> ● 接続をテスト]ボタン – 入力した情報でSQL接続を正常に確立できることを確認します。接続が正常に完了しないと、インストールの次のステップに進めません。 ● 前のSQL画面から継承された値 – ユーザーは複数の画面で同じSQL情報を入力する必要がなくなります。

修正と改良

このバージョンのInteractでは、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明
インストーラー	<p>Interactインストーラーには、次の改良が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大ユーザー数の増加 – 以前は、最大プールサイズにデフォルト値が使用されていました。最大プールサイズが500に設定され、より多くのユーザーが使用できるようになりました。 法的および視覚的な強化： <ul style="list-style-type: none"> 使用許諾契約書 (EULA) が再フォーマットされました。 インストーラー全体で、発行者名が「Blue Prism Limited」に更新されました。

Web APIサービスの更新

Interactのこのリリースの一部として、Interact APIサービスリリースファイルがバージョン1.2.1に更新されました。

このバージョンのInteractでは、Web APIサービスとユーティリティ(Interact API Blue Prism VBO) に以下の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
アクション	<p>バージョン1.2.1には、次の新しいアクションが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信を生成 フォーム名別にユーザーを取得 <p>次のアクションは、ユーティリティ(Interact API VBO) にのみ表示され、Web APIサービスの構成を更新]アクション(アクションの変更)と [ステータスを更新]アクション(アクションの移動) にマッピングされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドの状態をオプションに変更 フィールドの状態を必須に変更 フィールドの状態を読み取り専用に変更 フィールドの状態を非表示に変更 ページの状態を表示に変更 ページの状態を非表示に変更 送信を履歴に移動 送信を承認済みに移動 送信をレビューに移動 送信を却下済みに移動 送信を下書きに移動 送信を受信トレイに移動 送信をアーカイブ済みに移動

エリア	変更の説明
アクション	<p>ユーティリティ(Interact API VBO) の次のアクションは、上記のアクションに置き換えられました。</p> <ul style="list-style-type: none">• 構成を更新• 更新ステータス <p>この2つのアクションは、今後のリリースで削除されます。</p>

Interact Web APIサービスの詳細については、「」[「ユーザーガイド」](#)を参照してください。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

Interact 4.0 – 2020年9月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Interact(Interact) の4.0リリース用です。

重要なお知らせ

このリリースをインストールする前に、[制限事項](#)のセクションを確認してください。

機能強化

このバージョンのInteractには、次の新機能と機能強化が導入されています。

説明
Interactはサポート性を確保するために.NET Core 3.1に移行されました。
送信]タブに新しい受信トレイ機能が追加されました。受信トレイは、人間とDigital Workerのコラボレーションを可能にする場所です。送信はInteract Web APIサービスを使用して受信トレイに移動されます。これにより、ユーザー(人間)はDigital Workerと協力して、要求された情報を更新し、返されたコンテンツを確認することで応答できるようになります。
インストールプロセスの管理と調整のために、Interactインストーラーが追加されました。以前のインストールでは、Blue Prismコンサルタントが必要でした。
セキュリティを強化するため、このリリースでInteractにコード難読化が導入されました。
Interactのappsettings.jsonの秘密情報がすべて暗号化されるようになりました。
負荷分散インフラストラクチャがInteractでサポートされるようになりました。

修正と改良

以下の表に、Interactのこのリリースで加えられた修正と改良を示します。

説明
Interactのオンプレミスバージョンをサポートするため、クラウドサービスは廃止予定であり、代替のサービスはRabbitMQメッセージブローカーやファイルサービスです。
Kentoフォントを使用する日本語以外のすべての言語のフォントが、ユーザーインターフェイスでRobotolに変更されました。

制限事項

以下の表に、Interactのこのリリース内の制限を示します。

テーマ	説明	回避策
IADA	数値要素は「テキスト」形式でBlue Prismキューに送られます	Blue Prism内で一度数値にキャストを行う
送信を取得	送信を取得]Web APIサービスを使用する場合、数値要素は「テキスト」形式で送られます	Blue Prism内で一度数値にキャストを行う

テーマ	説明	回避策
送信を取得	Get Submission Web APIサービスを使用して [日付]要素を取得すると、日付が「DateTime」形式で返されます	Blue Prism内で一度テキストにキャストを行います。Interact内のさまざまな日付形式をサポートするには、テキストの使用を推奨します
送信を作成	Web APIサービスを使用して新しい送信を作成する場合、 [数値]要素が空白のままのとき、送信は成功しません	数値が設定された数値要素フィールドを送信します
送信を作成	Web APIサービスを使用して新しい送信を作成する場合、 [ラジオグループ]要素が空白のままのとき、送信は成功しません	値が設定されたラジオグループ要素フィールドを送信します
送信を作成	Web APIサービスを使用して新しい送信を作成する場合、 [アップロード]要素を使用すると何も返送することはできません	なし、ロードマップ機能
送信を編集	Web APIサービスを使用して送信を編集する場合、 [アップロード]要素を使用すると何も返送することはできません	なし、ロードマップ機能
Interact フォームの優先度とSLA	優先度とSLAはInteractフォームクリエイターで設定できますが、IADAの [次の優先度のアイテムを取得] (GNPI) 機能はオンプレミス構成では使用できないため、このリリースでは重要ではありません。	適用不可
ルール	Blue PrismからInteractフォームを更新する場合、ルールは強制されません。たとえば、フラグが設定されているときに非表示フィールドを表示するルールは、更新時にフラグが正しく設定されていると起動されません。フィールドが読み取り専用でない場合、ユーザーはフィールド内をクリックしフォーム内の別の場所をクリックすると、適用されたルールを確認できます	Interact APIオブジェクトの [構成を更新] アクションを使用して、いくつかのルールを置き換えることができます。
検証	Blue PrismからInteractフォームを更新する場合、正規表現や文字列の長さなどのその他の検証は実行されません。フィールドが読み取り専用でない場合、ユーザーはフィールド内をクリックしフォーム内の別の場所をクリックすると、適用されたルールを確認できます	なし

これらの新機能を使用するには、「」「Interactユーザーガイド」を参照してください。